

科目名	舞台実習Ⅲ							年度	2025
英語科目名	Stage Practice Ⅲ							学期	前期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必/選	選	時間数	105	単位数	3	種別※	実習+実技
担当教員	磯村純、千田恵子、須藤黄英		教員の実務経験			実務経験の職種			

【科目の目的】

俳優論を理解し、俳優術を具体的に体感していく。舞台の授業に自信を持って参加できるように、演技の基礎、作品、人物の理解を丁寧に紐解き実践していく。そして、発声力、歌唱力、滑舌力も並行して鍛錬していき最終的に舞台公演へと繋げていくこと。

【科目の概要】

学年末に行われる卒業公演の前に、演技の基礎となる要素を個別に取り上げて学ぶ。戯曲の世界観を学生全員で共有しつつ、読み合わせを行う。

【到達目標】

学生は、舞台作品創造において自己の理解や技術をより高める為に、稽古を積み重ねる中で他者や外界から新しい発見をし自らのものとする柔軟な姿勢を身に着けることを目標とする。戯曲を読み込む力をつけ、演出の意図を正しく理解したうえで、自らの表現を構築することができるようになることを目指す。相手役に伝える、相手役の意図を受け取る経験を重ね、そのなかから演技を構築できるようになることを目指す。

【授業の注意点】

学生の心身が健全、健康であることを何より優先する。学生とのコミュニケーションを重視し、明るく、清しい授業空間を作ることが肝要である。また、快活で積極的な授業参加を求めため理由のない遅刻や欠席は認めない。態度が改善されない場合、配役の変更や降をすることも有る。授業時数の4分の3を出席しない者は定期試験を受けることができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
	優れている	よい	ふつう	あと少し	要努力
到達目標 A	腹式呼吸を完全に習得し、明瞭で感情豊かな発声ができる。	腹式呼吸を使いこなし、安定した声量と適度な抑揚が出せる。	腹式呼吸の基礎を理解し、一定の声量と明瞭さを維持できる。	腹式呼吸を意識するが、不安定で声量や明瞭さに課題が残る。	腹式呼吸が身につけておらず、声量や明瞭さが不足している。
到達目標 B	正確な音程と豊かな表現力で感情を伝える歌唱ができる。	音程が安定し、適切な抑揚で魅力的な歌唱ができる。	音程を概ね正しく保ちながら、一定の表現力で歌える。	音程やリズムにばらつきがあり、表現力が十分でない。	音程が不安定で、リズムや表現力に大きな改善が必要。
到達目標 C	柔軟で洗練された動きで、感情や状況を的確に表現できる。	安定した身体コントロールで、感情や状況を表現できる。	基本的な動きができ、感情や状況をある程度表現できる。	動きにぎこちなさがあり、感情や状況の表現が不十分。	身体の動きが不安定で、表現力を高める基礎練習が必要。
到達目標 D	深い役の解釈と独自の工夫で、説得力のある演技ができる。	役の背景を理解し、安定した演技でキャラクターを表現できる。	役の基本的な設定を理解し、自然な演技で表現できる。	役の理解が浅く、演技に説得力や一貫性が欠けている。	役の解釈が不十分で、演技に取り組む姿勢の改善が必要。
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い

【教科書】						
レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。						
【参考資料】						
【成績の評価方法・評価基準】						
小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。						
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。						
科目名		舞台実習Ⅲ			年度	2025
英語表記		Stage Practice Ⅲ			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	シアターゲーム	授業の導入	自己紹介	自らをプロモーションする		
			シアターゲームの説明	シアターゲームの理解		
			シアターゲーム	コミュニケーション力の向上などの改善・向上		
2	五感を鋭敏にするエクササイズ	観察力や表現力を高める	即興演技	想像力と即興力を養う		
			ミラーリング	集中力や観察力を高める		
			感情表現ゲーム	感情表現の幅を広げる		
3	身体トレーニング	柔軟性や体力を高め、表現力豊かな身体を養う	ストレッチ	ウォーミングアップの手法を理解		
			基礎的な動作	立ち方、歩き方などの基本動作		
			身体表現	空間を使った即興的な動き		
4	一人芝居を作る	自己表現力の向上	テーマ設定	一人芝居のテーマ設定		
			物語作り	起承転結の構成		
			性格決め	キャラクターの立体化		
5	一人芝居を作る	自己表現力の向上	舞台設定	一人芝居の世界観を設定		
			演技練習	台詞、感情表現の練習		
			リハーサル	演技の準備段階の理解		
6	一人芝居の発表・反省	表現力の改善	発表	観客の前で表現		
			フィードバック	表現を見つめ直し、改善点を見つける		
7	中間発表作品学習	舞台作品の理解	作品分析	テキストと舞台表現の深掘り		
			脚本の解説	登場人物、舞台設定などを詳細に分析		
			役者の演技分析	登場人物の性格、感情表現を分析		
8	読み合わせ	台本の理解を深める	台本読解と分析	演劇作品を深く理解する		
			感情表現	観客に感情を伝える		
			身体表現の練習	集中力と表現力を高める		
9	読み合わせ	台本の理解を深める	役作り	表現する能力を養う		
			グループでの読み合わせ	相互作用の理解		
			舞台空間の認識	舞台空間を把握する		
10	立ち稽古	立ち稽古の過程を理解	台本読み合わせ	各役者の台詞、動き、感情などを確認		
			立ち稽古	台詞を覚え演技		
			フィードバック	演出家からのフィードバックを受け改善		
11	立ち稽古	立ち稽古の過程を理解	台本読み合わせ	各役者の台詞、動き、感情などを確認		
			立ち稽古	台詞を覚え演技		
			フィードバック	演出家からのフィードバックを受け改善		

12	立ち稽古	立ち稽古の過程を理解	台本読み合わせ	各役者の台詞、動き、感情などを確認		
			立ち稽古	台詞を覚え演技		
			フィードバック	演出家からのフィードバックを受け改善		
13	通し稽古	舞台本番の流れを確認・把握する	粗通し稽古	台詞、役の動きの理解		
			通し稽古	中断することなく通して演じる		
14	舞台稽古	舞台において本番同様の稽古	舞台説明	照明や音響、舞台装置などの理解		
			場当たり稽古	照明、音響のタイミングを理解		
			最終通し稽古	本番同様に演技		
15	中間発表と反省会		リハーサル	役の最終確認		
			中間発表本番	稽古成果の確認		
			反省会	演技への評価・反省		
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他						
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった						
備考 等						